

## 京都花山天文台の将来

京都花山天文台の将来を考える会(JPA 個人会員) 杉野文昂



2018年8月の京都大学岡山 3.8m 望遠鏡の完成に伴い、文部科学省からの花山天文台への運営資金が岡山 3.8m 望遠鏡運営に回ることになりました。そのため花山天文台の運営が危ぶまれています。この危機を回避し、市民の手で運営を継続させるため 2014 年「花山天文台の将来を考える会」を立ち上げました。

花山天文台は日本のアマチュア天文学の発祥の地であり、天文学を文化として社会に根付かせてきた貴重な資産です。イギリスのグリニッジ天文台が今も世界中の人々に親しまれているように、例えば宇宙科学館のような機能を持つ文化拠点として、後世に残せるものにしたいと考えています。日本の天文学の聖地・花山天文台が皆様方に末永く親しまれるよう、花山天文台の運営を支えるための活動にご協力をお願いいたします。

## 「使って・学べる」フリーペーパー制作～広報誌を活用した施設広報～

仙台市天文台 熊田美波

仙台市天文台では、2008年のリニューアルオープン以来、年に4回「ソラリスト」という広報誌（フリーペーパー）を発行している。広報誌を発行する目的として、「来館促進」「事業報告」「業界の普及振興・知識向上」などが挙げられるが、当台ではこれらの目的に加えて、「宇宙を身近に」という施設ミッションを達成するためのツールとして広報誌を使えるよう、切り口やデザインを工夫している。

宇宙に興味がない人に手に取ってもらうにはどうすればいいか…。基本的な制作方法を紹介するとともに、施設の事業紹介にとどまらない、「使って・学べる」広報誌の作り方を紹介する。



## 予算ゼロでどこまでできる?! さわれる展示

葛飾区郷土と天文の博物館 鈴木小夜子

予算をつけない・お金をかけない手作り展示の悩みを共有しませんか? 葛飾区郷土と天文の博物館では、プラネタリウム番組のテーマ展示をドーム入り口に昨年 10 月まで設置していました。その中から体験型・参加型の「さわれる」展示をご紹介します。

「さわれる」の定義

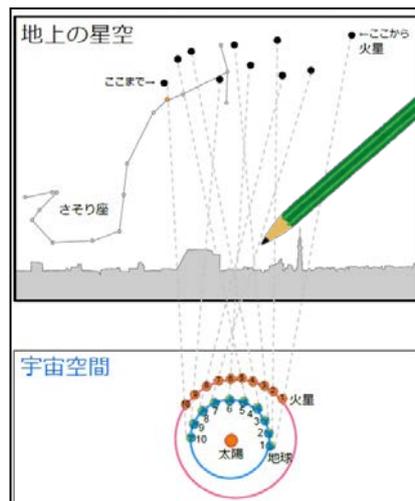
×博物館らしく本物がさわれる

×科学館のように実験できる

◎手を動かし、心も動かし、試して発見できる展示

子供から大人までの幅広い年齢層が楽しめ、材料は紙とペンがあれば十分! デジタルコンテンツに負けないアナログコンテンツを作りたい! と共感していただける皆様からの情報もお待ちしています。

(右図は 2016 年の火星接近時に制作した素材です。)



## 国際科学映像祭（IFSV）の取り組み

国際科学映像祭実行委員会 井上 拓己

世界各国で様々なフルドームフェスティバルが展開される中、私たちは日本を拠点する科学映像の祭典として、2010年より国際科学映像祭(International Festival of Science Visualization/IFSV)を開催してきました。目覚ましい映像技術の進化が見られる今の時代をリードする祭典として、現在はドーム映像関連分野に主軸を置き、映像クリエイターのすそ野を広げるとともに、ドーム映像に関わる人々のコミュニティ形成を目指した取り組みにも力を入れています。

今回のポスター発表では、世界各地のフルドームフェスティバルの現状も踏まえた、世界の中での本映像祭の意義、そしてまた近年の本映像祭の活動(ワークショップ・ドームフェスタ)の成果や今後の展望などをご紹介します。



# 国際科学映像祭

International Festival of Science Visualization

## プラネタリウム基礎調査2018結果速報

日本プラネタリウム協議会 渡部義弥

毎年行っているプラネタリウム基礎調査について、統計的なまとめと、施設規模ごとの観覧者数、投影回数等についての上位施設の発表を行います。

なお、この結果については、この発表のあとに、日本プラネタリウム協議会のWEBページ <http://www.planetarium.jp> にも掲載、一般に公開します。